

平成 18 年 3 月 23 日

各 位

株式会社ファルコバイオシステムズ
京都市中京区河原町通二条上る清水町 346 番地
代表取締役会長兼社長 赤澤寛治
(コード番号：4671 東証・大証各第一部)

大腸がんスクリーニング遺伝子検査に関する特許の独占実施権について

当社は、このたび財団法人岡山県産業振興財団（岡山 TLO）との間で、国立大学法人岡山大学（以下 岡山大学）から出願された大腸がんスクリーニングに有用な遺伝子のメチル化を検出する検査方法に関する特許について、独占実施権を含む契約締結の合意を得ましたのでお知らせいたします。

財団法人岡山県産業振興財団は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 田中紀章先生、助手 松原長秀先生ならびに永坂岳司先生の発明による、大腸がんスクリーニング検査のための便中における遺伝子のメチル化を効率よく高感度に検出する技術特許（3 件）の実施許諾権を有しており、当社は、その内の 2 件の特許について独占実施権を、1 件の特許について非独占実施権を得る契約を締結することになりました。

従来、大腸がんのスクリーニング検査には、便潜血検査が広く用いられてきましたが、検出感度が低いことと、疑陽性反応が多いことなどが問題視され、新しい検査方法の開発が望まれていました。岡山大学で開発された方法は、微量の便からがん DNA を抽出し、簡単な前処理で、がんに関連する複数の遺伝子のメチル化を検出する検査です。岡山大学の研究では、腫瘍の検出感度が 90% で、特異度が 55.3% あることが見いだされ、同時に比較検討した便潜血検査での感度、特異度はともに 33.3% でした。

当社は、今後、本特許の方法を用い、大腸がんスクリーニングの検査サービス及び診断薬の販売を計画しています。便潜血検査では、健診市場と診断市場を合わせて数百億円規模の売上があり、能力に勝る遺伝子検査はこれらの市場を塗り替えていくものと考えております。

本件に関わる業績への影響は、診断薬の製造承認を得るには数年を要することから、当面は軽微であると考えております。

以上

本件に関する一般的なお問い合わせ先：
(IR 広報室) 電話 075-257-8501

技術面に関するお問い合わせ先：
(遺伝子事業部) 電話 075-257-8541